

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年10月17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892400029		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 守谷	ユニット名	一番街
所在地	〒302-0105 茨城県守谷市薬師台5-17-8		
自己評価作成日	平成24年3月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年10月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0892400029&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年5月29日	評価確定日	平成24年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員の定着率とチームワークの良さが介護の質に繋がっている。 特に力を入れていることは「快食・快眠・快お通じ」

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

殆どの職員が介護福祉士の資格を有していたり、その中で介護支援専門員の資格も5人が取得しており、質の高いサービスを提供できるよう全職員で話し合い、日々の実践につなげている。 広報誌を発行し、家族等や地域住民に配布して事業所を知ってもらえるように取り組むとともに、事業所主催の夏祭りやニチイ祭りなどの行事に地域住民を招待し、利用者や家族等と交流ができるように努めている。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭らしくを理念に、「ここは自宅。一番安心できる場所」を職員全員が努めている。また、玄関にも掲示し、家族や地域の方々とも共有している。ホーム会議時に理念の確認および共有することがよりよいホームづくりに繋がっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、管理者と職員は全体会議時に唱和して共有を図り、日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、総会やゴミ拾い、避難訓練に参加し地域の一員となっている。また、地域の小学校の下校パトロールに参加し、子供たちや地域のかたがたとの交流を楽しんでいる。	自治会に加入し、利用者と職員は一緒に自治会の総会や地域の清掃活動、避難訓練に参加し、地域の一員として交流している。 利用者と職員は一緒に地域の人々による近隣の小学校の下校パトロールに参加しており、利用者は子ども達や保護者、地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談などで、介護保険の申請、認知症についてなどわからないこと、心配なことについてお話させてもらっている。散歩や下校パトロールなどで会う地域の方々との交流が重要に考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・市役所・ご家族・利用者の方々を中心に貴重な意見を頂戴し、議事録に残している。その内容を全職員が理解して実践に役立てている。しかしながら、ホーム長が不在だったため、平成23年7月20日より開催が出来ていない。	運営推進会議は家族等や地域包括支援センターの職員、民生委員、管理者、職員で開催しているが、2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。 会議では利用状況や行事報告をするほか、地域包括支援センターの職員から報告を受けたり意見交換を行い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	平成24年度は運営推進会議を2ヶ月に1回開催することを書類で市に提出しており、実現することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状の報告及び相談をさせてもらっている。	管理者は定期的に市役所を訪れ、担当者に事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えるとともに、情報交換や相談をするなどで協力関係を築くよう努めている。 管理者は年1回市主催のグループホーム連絡会に出席し、情報交換などを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の方針は「身体拘束をしない」だが、危険を伴う場合は「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明と同意書」の取り交わしをし、早期の解除に努めるようにする。	全職員は年1回開催する法人の研修や月1回の内部研修で身体拘束の内容とその弊害について正しく理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 対応が困難な利用者の場合はカンファレンスを行い、転倒防止のために家族等と話し合い、同意を得たうえでベッドにセンサーを付けるなどで身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社資料の高齢者虐待防止の手引きをもとにホーム会議にて話し合う。虐待とは一体なんなのかを根本的なところから理解し直し、職員一人ひとりの虐待の防止・発見に努めていくようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社のマニュアルを用いて成年後見制度や日常生活自立支援事業についての勉強会を開催している。利用者の人権尊重は基本的なことと理解して支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては時間をかけて十分理解を頂いてから勧めている。改定に関しては、家族会を実施し、十分な理解と納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて多くのご意見や要望をいただいている。それを運営に反映させることが信頼関係に繋がることだと考える。	職員は日常の問いかけや会話の中から利用者の意見や要望を汲み取り、運営に反映させるように努めている。 8割以上の参加を得て行われる家族会のほか、面会時や電話などで家族等の意見や要望を聴き、運営に反映させている。 重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議・ユニット会議などで職員ひとりひとりの意見を言える場を設け、全員で話し合い、反映出来る様になっている。職員ひとりひとりの考え・意見が運営には大切である。	管理者は月1回のユニット会議で職員から意見等を聞く機会を設けるとともに、出た意見等を受けて勤務体制の配慮や物品の購入などを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度や資格手当制度にて介護福祉士の取得者が増えた。非常勤者から常勤者への登用も有る。職員の働きやすい環境づくりに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修に参加している。社外での研修だけでなく、社内での研修や勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所連絡会や他の福祉施設との交流がとても勉強になるのだが、現状同業者との交流の機会を持っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人とお話する時間を必ず作り、現状の問題となっている原因を追究できるようにしている。また、言動や表情からも不安なことや困っていることなどをつかむことが出来るように面談は本人のペースで出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時にホームをまず見学してもらい、ここでの暮らしやケア方法について理解をもらう。その上で困っていることや心配事をお話いただいている。その内容はケアプランにもりこんでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みや見学時に事前調査させていただき、当ホームだけではなく、現状にあったサービスを色々と提案・説明させていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭らしく職員も家族の一員として暮らしの中にいるようにしている。利用者より教えていただくことも多く、よりよい信頼関係が出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアを職員と家族とともに家族関係や絆を大切にしながら、共に支えてもらうように申し込みや契約の際に話をさせてもらい、実践している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方には出来るだけ面会に来ていただけるようお願いし、馴染みの場所にも訪問できるようにしている。また、馴染みの物も入居の際に持参していただくようにしている。	職員は利用者との日常会話や家族等の話から、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を把握するとともに、馴染みの人がいつでも気軽に来訪できるようにお茶を出してもてなし、今までの関係が途切れないよう支援している。 職員は利用者の日本舞踊の弟子や友人に手紙や電話で連絡し、継続して来訪してもらえよう働きかけている。 職員は利用者が一時帰宅ができるよう家族等と連絡を取ったり、墓参りに付き添うなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のよりよい関係づくりに努め、孤立せず共同生活を楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もボランティアで演奏に来ていただいたり、手紙等で近況をお聞きし、相談にもものらせていただいている。災害時には物資（オムツ）の寄付をいただいた。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の要望・意向を聞き、また把握したうえでケアプランを立てている。今までの大切にしてきた生活習慣を続けていけるように努めている。	利用者がその人らしい暮らしを続けられるように、職員は日常の会話を通して希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得ている。 意思表示が困難な場合は、日々の生活の中での表情や行動から利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネージャー等より十分な時間をかけてアセスメントを行っている。生活歴や馴染みの暮らし方等を把握して、よりよい暮らしを支援できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが残存能力を活かした生活ができるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、再アセスメント、担当者会議、必要時に応じて行い、それぞれの意見を介護計画に反映させ作成している。	アセスメントを行い利用者や家族等の意見や要望を取り入れたり、医師や職員で行う担当者会議で出た意見等を反映した介護計画を作成している。 利用者や家族等の要望が変化したり、利用者の心身の状態が変化した場合は、随時現状に即した介護計画に見直して。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態やケアの実践内容等を記録し、職員間で情報共有している。そして今後の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応がもとめられるため、臨機に対応するように、職員の予定シフトを変更したり、出勤の職員を多くして対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	下校時の見守り隊や地域の避難訓練に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に主治医は選んでいただいている。内科だけでなく、歯科、眼科、皮膚科も往診してもらっており、安心して適切な医療を受けられるようになっている。受診記録をとって家族に報告している。	入居の際に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認し、希望があれば受診を支援しているほか、「提携医療機関一覧」を家族等に渡しその中の5箇所の医療機関の医師による訪問診療が受けられるなど、利用者や家族等の意向にそった適切な医療が受けられるように支援をしている。 職員は受診結果をその都度家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での情報や気づきなどは主治医にこまめな情報提供および相談をしている。主治医より受けた指示により、適切は医療が受けられるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、現状と今後の治療方針の説明や家族、主治医、相談員との話し合いに同席させてもらい、情報交換や相談をして、早期に退院出来るように体制づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行わないことを契約時に説明しているが、重度化や終末期が予想される場合は、主治医、本人、家族と話し合いをして、その際に当事業所で出来ることを十分に説明させていただいている。そのうえで、介護職として出来ることを実践している。	法人の方針で看取りは行わないことを契約時に利用者や家族等に説明しているが、実際には看取りの経験があり、昨年度は2例実施している。重度化や終末期が予想される場合は、主治医や利用者、家族等と話し合い、事業所でできることを説明して看取りの対応をしている。重度化や看取りに向けた事業所の対応指針を管理者や職員、医療関係者で話し合っ作成するまでには至っていない。	管理者は職員や医療関係者等と話し合い、重度化や看取対応指針を作成するとともに、利用者や家族等に説明することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに発生時に混乱しないように、手順や対応について訓練、勉強会をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊立会いのもと、火災を想定した訓練を行っている。夜間を想定した訓練も実施している。地域の方々との交流の際、協力をお願いしている。	消防署指導のもと夜間を想定した避難訓練を年1回実施しているが、年2回以上の実施には至っておらず、近隣住民の参加も得られていない。避難訓練の実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題を全職員で話し合い、共有して次回の訓練に活かしている。災害時に備え缶詰や飲料水、毛布などを備蓄している。	避難訓練は自主訓練を含め年2回以上実施することを期待する。災害時に近隣住民の協力が得られるように、運営推進会議や自治会長を通して避難訓練への参加を働きかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、ほこりやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。記録の記入もアルファベット4文字表記にしている。個人情報の取り扱い同意書も契約の際、取り交わしている。	職員は利用者の人格を尊重しながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。個人名の記載はアルファベットを使うなど、プライバシーの保護に努めている。個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が意思決定出来るように支援している。重度化の場合でも表情や言動より汲み取る様になっている。職員が決定することは極力なくしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしている。家庭らしい本人の生活リズムが出来るように起床、食事、入浴、入床当を行っている。レクの内容や献立、外出先や外食先なども希望にそうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の方の協力のもと、その方の希望の髪型に散髪してもらっている。整容や服装にも気をつけるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には、利用者と献立を決め、調理や配膳、食事、片付けを一緒に行っている。包丁を使ってもらったり、洗い物をしてもらったりしている。	献立は利用者と職員が一緒に決め、食材を近隣の商店やスーパーから届けてもらっている。 毎日の食事が楽しみなものになるように、利用者と職員は調理や配膳、食事、後片付けなどを一緒にしている。 月1回外食支援を行ったり、寿司職人を招いて寿司パーティをするなど、食事が楽しくなるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を管理、把握し、必要摂取量に満たない時は、献立や調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合った口腔ケアを実施している。また、義歯は週一回、薬品につけて洗浄・殺菌をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄管理をし、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。トイレへの声掛けや誘導することによって、自立で排泄できるようにしている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導を行い、トイレで排泄ができるように支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため、食事の工夫で食物繊維の多いものを調理したり、水分摂取に努めたりしている。排泄管理はもちろんのこと、体操や運動を取り入れたり、場合により、排泄時に腹部マッサージを取り入れたりもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴するときは、一人ひとりに合わせて実施しているため、本人の意向を大切にしている。入浴で楽しんでもいただけるように入浴剤を使用したり、バラの花をうかべたり、季節感を出したりして支援している。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望にそっていつでも入浴ができるように支援している。 入浴を楽しんでもらえるように、入浴剤を使用したりバラの花びらや柚子を浮かべるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にリビングに居たり、居室に戻ったりと自由な時間を過ごせるように支援している。日中の活動性をあげるようにして、夜間の良眠にも繋がっていると思われる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりについての既往歴や現病歴も含め、薬名、目的、副作用を理解している。食前薬・食後薬など、服薬の支援については、手順にそって対応するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役目をもってもらったり、仕事をしていただいたりと張のある生活になるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外食を定期的に行くようにしている。普段いけないような場所については家族に協力していただいている。ほとんどの家族が遠出を希望されていないため、近くの場所で回数を多くして支援していく。	利用者は天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、庭で弁当を食べたりしている。 職員は月1回利用者の希望を取り入れ、利用者全員を2回に分けて外食に連れて行くなど、定期的な外出支援をしている。 家族等の協力を得て花見や地域の小学校の運動会などに出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の金銭管理はむずかしいため、常時所持してもらうことは行っていない。金庫にて管理をしている。欲しい物などが有る場合は、お小遣の中から支払ってもらっている。お小遣帳に領収書を貼付して写しを毎月、家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状を出す為の葉書の準備や代筆の支援を行っている。家族からの電話の取次ぎや希望によって、本人からかけられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレに張り紙をしたり、浴室に暖簾を掛けたりしている。季節に応じた壁飾りを作成している。常に居心地よく過ごせるように心がけている。	居間の壁に利用者と職員と一緒に折り紙で制作した季節の花を飾り、温かい雰囲気を演出している。 居間から自由に出入りができるサンデッキを設置し、開放感や広々とした居住空間を演出しており、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気のあった利用者同士が思い思いに過ごせるように席替えや机の配置を変えるなどして工夫している。また、いつでも居室に行くことは自由になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものや気に入っている物などで今までの生活に極力近づけるような環境づくりをしている。居室のレイアウト等も本人や家族の意見や意向を取り入れている。	利用者は居室に使い慣れた家具や馴染みの物品を持ち込んでいるほか、家族等の写真を飾ったり仏壇を置いたりして居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一だが、そればかり追求してしまうと過剰な介護になってしまうため、自立支援に必要なときは、包丁も使ってもらったり、階段を使用したりと一人ひとりにあつたことを取り入れている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター守谷

作成日 平成24年10月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の定期開催	二ヶ月に1階開催	市に提出した年度の開催スケジュールに従い、実施日や内容を立てていく。運営推進会議の主催者（管理者）を変更する。	3 カ月
2	12	重度化や終末期の指針作成	指針を作成して利用者や家族に説明できるようにする。	重度化や終末期への対応指針を関係者と話し合いながら作成し、家族の意見も取り入れていく。	3 カ月
3	35	避難訓練及び自主訓練の実施回数	避難訓練は自主訓練を含めて年二回行う。	防火管理者の変更とともに年二回の開催に向けた計画作りを行い、計画後に消防署に届出をしていく。	3 カ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。